

京都模倣都市論

～模倣都市から見る京都認識の変容～

建築デザイン研究室

登尾聡

1. 研究の目的

近代以降都市の急速な開発がたびたび行われ、古都京都の都市風景が大きく変貌した。それは京都に限った問題ではなく、日本各地に残された伝統や歴史的都市をどのように捉え、継承すべきかの議論を呼んでいる。¹ それでは、近代以前はどのように伝統を認識し、伝搬されてきたのであろうか。

この問題を考察するにあたって、近代以前に出現した京都を模倣する都市を研究対象として取り上げる。具体的には、院政期開発地区（白河・鳥羽・法住寺）、平泉、鎌倉、小京都、江戸、札幌である。古代以来京都は理想・伝統都市として捉えられ度々都市の模倣がなされた。その模倣のプロセスから歴史・伝統の伝搬過程やそれらに対する認識を抽出することで、現代における伝統的都市を捉えなおすことができると考えたからである。また、長期間持続する京都模倣観念に対して各模倣都市を短期間の事象として位置づけることで浮かび上がる構図を示すこともひとつの目的である。² ここでは全ての事例は扱わず、院政期新都市開発・平泉・江戸町人地における京都模倣の特質を見ていく。

2. 模倣都市の事例紹介

事例 1：院政期開発地区（白河・鳥羽・法住寺）

院政期新都市開発地区の地割には、条坊制地割と同じ寸法の区画を敷くなど平安京を模倣した様子が窺える。³ 鳥羽・法住寺殿の御所は、寝殿造を基調とした建築様式によって造営されている。⁴（図 1）しかし寝殿造は、主に平安京内の貴族邸宅に使用されていた建築様式である。⁵ 平安京内の御所といえば内裏である。⁶（図 2）それではなぜ内裏が模倣されなかったのだろうか。平安京内における内裏の位置づけを検証していく。

内裏はその巨大な規模ゆえその維持管理が非常に困難であり、度々火災によって焼亡することがあった。⁷ そのため天皇は他所へ住まいを移すことになる。その時仮御所として利用するのが里内裏であり、主に貴族の邸宅を使用していたとされている。⁸ しかし内裏の火災が頻繁に起きるようになると、里内裏に住まうのが日常化し、内裏はハレの儀式を行う空間に変わっていくのであった。⁹ 院政期頃には、天皇の日常空間が里内裏で、非日常空間が内裏といった反転が起きていたと

されている。¹⁰ つまり院政期の平安京内における住まうための御所が里内裏（寝殿造）であり、儀式のための御所が内裏であったため、御所が寝殿造によって造営されたと考えられる。

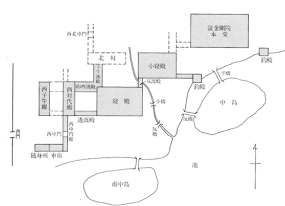


図 1 鳥羽殿復元図（太田静六『寝殿造

の研究』吉川弘文館 1987年）

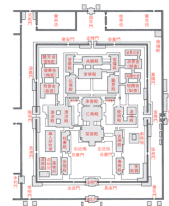


図 2 平安宮内裏復元図（高橋康雄・吉田伸之・宮本雅明・伊

藤毅編『図説日本都市史』東京大学出版部 1993年）

事例 2：平泉

平泉は、巨大な宗教施設造営時に京都のそれを模倣したとされている。¹¹ だが桓武天皇の南都（平城京）仏教を排除する政策により、平安京内には当初東寺・西寺しか存在しなかった。¹² しかし平泉の寺院はそれらを模倣した様子が窺えないのである。それでは、平泉の寺院は京都のどの寺院を模倣したのであろうか。

藤島亥治郎は、伽藍配置や庭園構成から平泉を代表する毛越寺は京都の法勝寺を模倣した寺院であるとしている。¹³（図 3、4）法勝寺とは、院政期に造営された白河の中心的寺院である。¹⁴



図 3 毛越寺復元図（藤島亥治郎編『平泉／毛越寺

と観自在王院の研究』東京大学出版部 1961年）



図 4 法勝寺復元図（清水誠『平安時代仏教建

築史の研究』中央公論美術出版 1992年）

つまり平泉で模倣された京都の都市要素は平安京外に造営された寺院であった。さらに白河の法勝寺を含む六勝寺の造営目的は、摂関政治に対抗した政治的モニュメントとしてである。¹⁵ すなわち仏教勢力排除を目的に当初平安京内には、東寺・西寺のみしか存在しなかった。だが院政期になると摂関政治に対抗しようと南都寺院を復古させるようにした六勝寺が造営される。平泉では、六勝寺の代表的寺院である法勝寺が理想都市京都のモニュメントとして模倣対象になっているのである。

事例 3：江戸町人地

江戸町人地は、京都の町割を模倣したとされている。

¹⁶だがそれは古代平安京造営当初ではなく中世京都のそれを模倣したようである。¹⁷それでは中世京都の町割成立過程を見ていく。

中世京都町割成立には、大きく2パターンある。一つ目は、古代平安京の四行八門制の宅地割からの変容である。四行八門制は平安京内の庶民に分け与えられた宅地割パターンである。¹⁸律令国家の勢力が弱体化しだすと、四行八門制の宅地割に従わない住居が現れるようになる。つまり条坊地割を基本としながらも、間口を道に向けた住居の出現である。そうすると次第に同一区画同士の宅地よりも道を挟んで向かい合わせる宅地同士の結びつきが強くなり、中世京都の町割パターンの両側町が形成される。¹⁹ (図5)

もう一つは、平安京条坊地割の一区画を占める境内と道の境界線付近を不法占拠する人々によって形成されるパターンである。境内周囲に張り巡らされている築地塀に対して寄添うように住居が構えられ、境内を所有している貴族や寺院の権力が衰弱していくことにより、いつしか築地塀内部にまで住居が侵食するようになるのであった。²⁰またそれとは逆に築地塀の外部に向けて敷地を広げる巷所も発生した。(図6)すると当初条坊制によって設定されていた「大路」・「小路」の階層構造は失われ、都市空間が単調な格子状の町割に変容するのである。²¹そして区画周囲に町屋が発生することにより、ここでも道を挟んで向かい合う宅地同士で両側町が形成されるのであった。

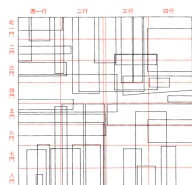


図5 宅地割変遷図 (高橋康雄・吉田伸之・宮本雅明・伊藤毅)

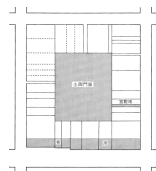


図6 土御門四丁町度元図 (高橋康夫『京都中』)

編『図集日本都市史』東京大学出版部 1993年)

『都市史研究』思文閣出版 1983年)

江戸の町割を見ると、京間60間四方の正方形区画周囲に町屋を配し、道を挟んだ町家同士で両側町を形成している。²² (図7, 8) 区画中央部には会所と呼ばれる空地が設定され、中世京都のような境内が配されることはほとんどなかった。²³というのも江戸の都市全体は身分によって明確に住まうエリアが決定されるため²⁴、区画中央部に境内が配置されることは相応しくなかったからと考えられる。

すなわち江戸では条坊制を崩していくことで発生した町割パターンを近世の身分差別的文脈によって模倣していたのである。

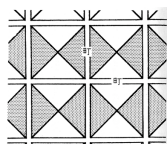


図7 両側町様式図 (玉井智雄『江戸 失われた』)

『た都市空間を読む』 平凡社 1986年)

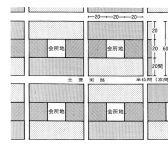


図8 江戸町人地町割 (玉井智雄『江戸 失われた都市』)

『空間を読む』 平凡社 1986年)

3. 模倣都市と京都

京都を模倣した都市3事例を見た結果、常に変容していく京都が理想・伝統都市としてとらえられ、模倣されることが明らかとなった。またここで紹介しなかった事例についても同様の結果が得られた。なぜこのようなことがおきるのでしょうか。次に模倣都市全体の特徴および都市認識作業について考察していくこととする。(図9²⁵)

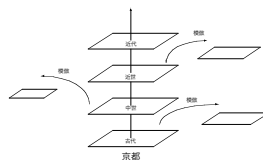


図9 京都模倣都市と京都におけるイメージ図

□京都模倣都市と京都

模倣都市に共通して言えることは、都市再開発手法として利用されるのではなく新都市開発時に登場する。そして京都を模倣した都市は、継続的に現れることなく断続的に登場している。さらに京都を模倣した都市が登場する時期は、おおよそ政治的変革期であることに気づく。すなわち政治的変革期に、京都が疎外化または、京都が何らかの外発的影響を被ると、それらのバランスをとろうとする内発的作用として京都模倣都市を捉えることができる。²⁶ある種の「京都市的なもの」の登場である。²⁷つまり京都模倣都市は、危機に瀕する京都における集団的記憶の回復であった。²⁸

□アーカイブ (記憶装置) としての京都

京都が強く意識・想起される時に、京都模倣都市が登場することを確認した。次に京都に対する記憶回復の作業を見ていく。

都市は人間の時間的スケールをはるかに越えている。²⁹そのため都市なるものが常に記憶の貯蔵庫として用いられる。³⁰つまり建築や都市が記憶を助ける手段として働くのであり、記憶しようとする事物や出来事を視覚的な事物のイメージに対応させながら語られ、記憶されるのである。³¹それは想起の作業を容易にするためである。³²すなわち京都 (都市) の記憶は常に人々の頭の中に保持されているのではなく、想起されるときに初めて取り戻されるのである。そのためこれまでの事例で見てきたように変容していく京都が伝統・理想都市として想起されるのであった。

□新しい京都

京都を理想・伝統的都市として想起される時、時制は無視される。³³なぜならば想起のプロセスは、出来事を始めに体験したときの時間継起、視点に沿って想起することではなく、同じ出来事、同じ事物を異なる視点、異なる時間継起を辿って新しく想起するからである。³⁴ (想起を始める位置は想起主体の歴史的背景が大きく左右することも上であげた事例から明らかである。) そのため現前する事物どうしが想起されるたびに

新しい連合関係を形成し、各事物に関して新しい時間軸が設定され、その事物がかつてどのような存在であったのかは忘却される。³⁵事象の連鎖（シーケンス）はあらゆる方向に向かって生成し、そのつど伝統や歴史は新たな時間軸を精製するのである。³⁶この時歴史の継承と断絶は同時に起こる。

京都模倣都市から京都認識の変容を見た結果言えることは、政治的変革期に強く京都が意識・想起され、その時都市的事物間にその都度固有な関係が織りなされるとともに、ある種の都市史的記憶、個人的・集合的記憶を背後に新しい京都が作り上げられてゆくのであった。

4. 結論

京都模倣都市を見てきた結果言えることは、都市変容が繰り返し起こっている一瞬間の京都が各時代に理想・伝統都市として捉えられてきたのである。そのような京都の象徴性は、各時代の京都模倣主体によって見いだされ、決して伝統や歴史が絶対的・不変的に存在するのではなく、各時代を生きる人々によって事後的に更新されることが明らかとなった。そして模倣都市は、京都が強く想起される時に登場し、過去の継承と断絶が同時に起こる都市・歴史認識の大きな飛躍を伴う瞬間でもあった。

¹伊藤毅『都市の空間史』吉川弘文館 2003年、吉田伸之『日本の近世9 都市の時代』中央公論新社 1992年

²このような視点が得られたのは、既往の総合的歴史研究による。フェルナン・ブローデル『歴史入門』金塚貞文訳 太田出版 1995年、イマニュエル・ウォーラステイン『近代世界システム1・2』川北稔訳 岩波書店 1981年、ケネス・フランプトン『テクニクカルチャー19-20世紀建築の構法の詩学』松畑強・山本想太郎訳TOTO出版 2002年、アンリ・フォション『形の生命』杉本秀太郎訳 岩波書店 1969年 George Kubler『The shape of time』Yale university 1962年（英文の翻訳は主に第二次資料研究会による。第二次資料研究会とは、故大島哲蔵氏（大阪市大非常勤講師・美術批評家）、中谷礼仁（大阪市大専任講師・建築史家）らを中心とし、大阪市立大学で開催した二次資料の可能性を扱う会。1999年3月より『The shape of time』の翻訳作業を始め、2002年8月に荒訳が完了。この勉強会参加者により精訳会を立ち上げ、そこで修正された訳文を参考にした。北浦千尋『ジョージ・キューブラー著 The shape of time（時のかたち）における連鎖的思考とその現在における有効性』大阪市立大学大学院工学研究科建築学専攻修士論文2003年）、「都市は連鎖す

る」中谷「意図されない過去へ」清水重敦以上『都市は連鎖する』都市連鎖研究会 『10+1』no30 INAX 出版 2003年、「都市はたたる」都市連鎖研究体「先行形態論ノート」中谷礼仁「史的結物論」清水重敦以上「都市はたたる」都市連鎖研究体『10+1』no32 INAX 出版 2003年

³財団法人古代学協会・古代学研究所編『平安京提要』角川書店 1994年、堀内明博「権門の都から洛中辺土の京へ」網野喜彦・石井進『進行と自由に生きる 中世の風景を読む 第五巻』新人物往来社 1995年、杉山信三『院の御所と御堂：院家建築の研究』奈良国立文化財研究所 1962年、高橋康雄・吉田伸之・宮本雅明・伊藤毅編『図集日本都市史』東京大学出版界 1993年、高橋康夫「日本中世の「王都」」『年報都市史研究7』山川出版社 1999年

⁴太田静六『寝殿造の研究』吉川弘文館 1987年、財団法人古代学協会・古代学研究所編『平安京提要』角川書店 1994年

⁵太田静六『寝殿造の研究』吉川弘文館 1987年、

⁶国史大辞典編纂委員会『国史大辞典』吉川弘文館 1986年、高橋康雄・吉田伸之・宮本雅明・伊藤毅編『図集日本都市史』東京大学出版界 1993年

⁷林屋辰三郎編『京都の歴史1 平安の新京』京都市学芸書林 1970年、橋本義彦『平安貴族社会の研究』吉川弘文館 1976年

⁸橋本義彦『平安貴族社会の研究』吉川弘文館 1976年、国史大辞典編纂委員会『国史大辞典』吉川弘文館 1986年

⁹国史大辞典編纂委員会『国史大辞典』吉川弘文館 1986年、橋本義彦『平安貴族社会の研究』吉川弘文館 1976年、財団法人古代学協会・古代学研究所編『平安京提要』角川書店

¹⁰国史大辞典編纂委員会『国史大辞典』吉川弘文館 1986年、橋本義彦『平安貴族社会の研究』吉川弘文館 1976年、財団法人古代学協会・古代学研究所編『平安京提要』角川書店、

¹¹平泉文化研究会『奥州藤原氏と柳之御所跡』吉川弘文館 1992年、高橋富雄『平泉の世紀 古代と中世の間』日本放送出版会 1999年、入間田宣夫・本澤慎輔『奥羽史研究叢書3 平泉の世界』高志書院 2002年、平泉文化研究会編『日本史の中の柳之御所跡』吉川弘文館 1993年、藤島亥治郎編『平泉／毛越寺と観自在王院の研究』東京大学出版会 1961年、福山敏男『日本の美術25 平等院と中尊寺』平凡社 1964年、『朝日ビジュアルシリーズ日本遺産第27号 平泉』朝日新聞社 2003年

¹²林屋辰三郎編『京都の歴史1 平安の新京』京都市学芸書林 1970年

¹³藤島亥治郎編『平泉／毛越寺と観自在王院の研究』東京大学出版会 1961年

¹⁴ 清水擴『平安時代仏教建築史の研究』中央公論美術出版 1992年、財団法人古代学協会・古代学研究所編『平安京提要』角川書店 1994年、福山敏男「六勝寺の位置について」『日本建築史研究』墨水書房 1968年

¹⁵ 平岡定海「六勝寺の成立について」『日本寺院史の研究』吉川弘文館 1981年、竹内理三『律令制と貴族政権』お茶の水書房 1958年、清水擴『平安時代仏教建築史の研究』中央公論美術出版 1992年

¹⁶ 玉井哲雄『江戸 失われた都市空間を読む』平凡社 1986年、内藤昌『江戸と江戸城』鹿島出版会 1967年

¹⁷ 玉井哲雄『江戸 失われた都市空間を読む』平凡社 1986年、内藤昌『江戸と江戸城』鹿島出版会 1967年

¹⁸ 高橋康雄・吉田伸之・宮本雅明・伊藤毅編『図集日本都市史』東京大学出版界 1993年、玉置豊次郎『日本都市成立史 都市建設資料集成』理工学社 1974年、内藤昌『日本 町の風景学』草思社 2001年、林屋辰三郎編『京都の歴史 1 平安の新京』京都市 学芸書林 1970年、財団法人古代学協会・古代学研究所編『平安京提要』角川書店 1994年

¹⁹ 秋山國三・中村研『京都「町」の研究』法政大学出版局 1975年、高橋康雄・吉田伸之・宮本雅明・伊藤毅編『図集日本都市史』東京大学出版界 1993年、高橋康夫『京都中世都市史研究』思文閣出版 1983年

²⁰ 高橋康夫『京都中世都市史研究』思文閣出版 1983年、五味文彦「絵巻の中の都市 鎌倉・京」、高橋敏子「京中巷所 公から私の空間へ」『朝日百科日本の歴史別冊 歴史をよみなおす7 中世の館と都市ミクロの空間から』朝日新聞社 1994年、「都市はたたる」都市連鎖研究体「先行形態論ノート」中谷礼仁「史的結物論」清水重敦以上「都市はたたる」都市連鎖研究体『10+1』no32 INAX 出版 2003年

²¹ 伊藤毅『都市の空間史』吉川弘文館 2003年

²² 玉井哲雄『江戸 失われた都市空間を読む』平凡社 1986年、内藤昌『江戸と江戸城』鹿島出版会 1967年、玉井哲雄「近世都市と町家」永原慶二ほか編『講座・日本技術の社会史第7巻 建築』日本評論社 1983年、玉井哲雄「江戸の町家・京の町屋」『列島の文化史1』日本エディタースクール出版部 1984年、玉井哲雄「近世前期江戸町復原図の作成過程およびその問題点」『国立民俗博物館研究報告』23集 1989年

²³ 一部を除きほとんどが空地であったとされている。玉井哲雄「近世都市と町家」永原慶二ほか編『講座・日本技術の社会史第7巻 建築』日本評論社 1983年

²⁴ 高橋康雄・吉田伸之・宮本雅明・伊藤毅編『図集日本都市史』東京大学出版界 1993年、都市史図集編集委員会編『都市史図集』彰国社 1999年

²⁵ 法政大学陣内研究室 東京のまち研究会『東京 郊外の地域学～日常的な風景から歴史を読む～』1999年

²⁶ ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』白石さや・白石隆訳 NTT出版 1997年、岡崎乾二郎・中谷礼仁「建築の解體新書 4 テニヲハと納まり」『10+1 No.17』INAX出版 1999年

²⁷ 磯崎新『建築における「日本的なもの」』新潮社 2003年、中谷礼仁『国学・明治・建築家』一季出版 1993年

²⁸ カール・マルクス『ルイ・ボナパルトのブリュメール八日』植村邦彦訳 太田出版 1996年、ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』白石さや・白石隆訳 NTT出版

²⁹ 「都市は連鎖する」中谷「意図されない過去へ」清水重敦以上『都市は連鎖する』都市連鎖研究会『10+1』no30 INAX 出版 2003年、「都市はたたる」都市連鎖研究体「先行形態論ノート」中谷礼仁「史的結物論」清水重敦以上「都市はたたる」都市連鎖研究体『10+1』no32 INAX 出版 2003年、アルド・ロッシ『都市の建築』大島哲蔵・福田晴虔訳 大龍堂書店 1991年

³⁰ フランセス・A・イエイツ『記憶術』玉泉八州男監訳 水声社 1993年、アルド・ロッシ『都市の建築』大島哲蔵・福田晴虔訳 大龍堂書店 1991年、多木浩二『生きられた家 経験と象徴』岩波書店 2001年

³¹ 岡崎乾二郎『ルネッサンス 経験の条件』筑摩書房 2001年、フランセス・A・イエイツ『記憶術』玉泉八州男監訳 水声社 1993年、田中純『10+1 series 都市表象分析1』INAX 出版 2000年

³² 岡崎乾二郎『ルネッサンス 経験の条件』筑摩書房 2001年、フランセス・A・イエイツ『記憶術』玉泉八州男監訳 水声社 1993年

³³ 岡崎乾二郎『ルネッサンス 経験の条件』筑摩書房 2001年

³⁴ 岡崎乾二郎『ルネッサンス 経験の条件』筑摩書房 2001年

³⁵ 岡崎乾二郎『ルネッサンス 経験の条件』筑摩書房 2001年、清水重敦「史的結物論」都市連鎖研究体「都市はたたる」都市連鎖研究体『10+1』no32 INAX 出版 2003年

³⁶ 岡崎乾二郎『ルネッサンス 経験の条件』筑摩書房 2001年、George Kubler『The shape of time』Yale university 1962年、アンリ・フォション『形の生命』杉本秀太郎訳 岩波書店 1969年